

全中道研会報

令和4年8月26日 No.1

全日本中学校道德教育研究会

<https://zencyudo.webnode.jp>



会長挨拶

道德教育の発展を目指し
～各ブロックとの連携を
深める全中道研～



令和4年度 全日本中学校道德教育研究会

会長 月田 行俊

本年度から全日本中学校道德教育研究会の会長を務めることになりました東京都江東区立有明中学校長の月田行俊です。今年一年間よろしくお願いします。

令和2・3年度は全中道研事務局長という立場で関わらせていただきました。令和2年度の高知大会は、新型コロナウイルスの関係で、これまでの長い歴史の中で初めて中止という決断をせざるを得ない状況でした。しかしながら、吉田会長の「研究を止めない」という方針のもと、令和3年度の沖縄大会は初の試みとなるweb開催を実現し、各地区大会においても、実施していただきました。

令和4年度になり、数ヶ月間は感染者数も減少し、久しぶりの対面も含めた役員・理事会も開催できました。顧問の先生方と直接お目にかかりお話しができたことで、改めて全中道研としての取組を通して、各ブロックとの連携を深め、道德教育の発展を目指していくために一步一步前に進めていかなければならないと、その職責を実感しています。

昨年度に引き続き、重点的取り組むビジョンとして以下のテーマを掲げ、道德教育の発展を目指します。

1 組織体制の充実と強化

全国の道德教育発展には、副会長会の果たす役割は大きいと考えています。令和2

年度は、コロナ禍の関係で例外的に副会長会を単独で実施しましたが、これまでは、役員・理事会の際に、短時間での会を行っている状況です。今年度は、9ブロックの副会長、事務局長と会長とで「組織体制の充実や強化」をテーマに議論し、これまで以上に組織強化を推進していきます。

2 情報共有と情報発信

令和3年度は、沖縄大会(web開催)でホームページを活用した取組を推進してきました。今年度の山形大会も、課題を改善しながら充実を図って参ります。また、道德教育実践事例集を希望する方にホームページを活用して申請できる形で情報提供をしていきます。実践事例集9集の作成・発行を今年度行うとともに会報も発行していきます。

3 研究大会の支援

上廣倫理財団、石橋財団のご支援のもと、各ブロック、全国大会発表地域に対して援助していきます。全国大会発表地域に対しては事務局が直接訪問し大会を支援いたします。

4 研修会の充実

夏に実施する「道德教育推進教師育成講座」を今年度はハイブリッド型研修として実施し、授業力の向上を目指します。また、地区研修会等の要請があれば全中道研として必要に応じて協力します。

この夏も大雨による被害に見舞われ、大変な状況にある地区もある中ではありますが、活動を止めず、土台となって全中道研は常に皆様の支えになって参ります。

最後に、本会の運営には、上廣倫理財団、石橋財団のご支援が不可欠です。財団の皆様には心から感謝申し上げます。

今後ともよろしくお願いします。

第一回 役員・理事会報告

令和4年7月3日(土)午後1時より、ハイブリッドによる全中道研役員・理事会(第1回)を行いました。

主な議事・報告は、次の通りです。

- 1 令和3年度事業報告及び決算報告
- 2 令和4年度事業計画及び予算案
- 3 令和4年度役員組織

事前に配付した資料をもとに説明し、承認していただきました。

4 全中道研大会の今後の予定

【令和4年度山形大会】

大会主題を「いのちを輝かせ よりよい生き方を拓く 道德教育」～確かな教材研究に根ざし 他者と響き合い 自己を見つめる 道德科の授業づくり～とし、令和4年11月10日(木)から30日(水)の期間でWEBによる大会を開催いたします。授業動画、課題別分科会の提案・助言、飯塚教科調査官の指導講話等すべて配信予定です。

- ☐ 最終案内は電子データで配信
- ☐ 大会の申込は10月以降に開始

※最終案内にあるアドレスからの申込

- ☐ 申込から閲覧までの流れ
- ① 最終案内からの申込受付

⇒10月以降開始

(member ページ申請パスワード取得)

- ② member ページ申請
- ③ member ページ閲覧可能

【令和5年度北海道大会】

令和5年11月1日・2日 函館市にて開催

【令和6年度神奈川大会】

令和6年11月21・22日 川崎市にて開催

【令和7年度岐阜大会・令和8年度東京大会】

今後計画的に準備を進めていく予定

6 その他

・功労者の推薦【8/1 締切】

全中道研に貢献した会員について、退職時に各都道府県道德教育研究会からの申請に基づき、役員会、理事会の承認を得て表彰状等を贈ります。原則として、令和4年3月31日付の退職者を対象となる。なお、退職ではなく、役員を退任した方も対象となります。

・研究大会・研究指定校の報告【8/1 締切】

都道府県研究大会を把握し、祝電を送付する。また、研究指定校等についても、全国に紹介していきます。

・令和4年度会費(分担金)の納入【8/1 締切】

大会の開催費、理事会開催費、通信費等に活用させていただくため、例年分担金をお願いしています。全国は10,000円、関東甲信越ブロック10都県は13,000円をお願いしています。領収書は指定された「宛名」「送付先の宛名」「送付先住所」に送付予定です。

・道德教育推進教師育成講座【7/8 締切】

令和4年度道德教育推進教師育成講座は、都道府県から2日間参加可能な方を1名推薦していただき、オンラインで8/6・7の2日間で実施しました。

・2022年度道德教育育成助成金【7/26 締切】

全ての地区で助成金を申請し、若手教員育成等の研究実践に活用していただきます。

・「道德教育実践事例集第9集」について

道德実践事例集第9集については、各ブロックから令和3年度、または令和4年度の取組から実践者を選んでいただき、事務局へ推薦していただきます。

令和4年度 役員・理事会の開催について
第2回 令和4年11月27日(土)
オンラインで実施
第3回 令和5年2月26日(土)
東京都開催(予定)

第一回役員・理事会講演会（要旨）

「道徳科における深い学びについて」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官

飯塚 秀彦 先生

1 「深い学び」とは

○生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に**関連付けてより深く理解**したり、情報を精査して**考えを形成**したり、**問題を見いだし**て**解決策を考えたり**、**思いや考えを基に創造**したりすることに向かう**過程を重視した学習の充実を図る**こと。

（『中学校学習指導要領』第1章第3）

○道徳科の「見方・考え方」：様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えることであると言える。

（中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日））

2 道徳教育の要としての道徳科

○生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること。

○生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。

（『中学校学習指導要領』第3章）

○道徳的価値に関わる諸事象を、捉え直したり発展させたりして、生徒に新たな感じ方や考え方を生み出すという役割もある。したがって、その断片的あるいは掘り下げを欠いた不十分さを補うために、道徳科では、生徒が道徳的諸価値について自覚を深めることが必要である。

○道徳科においても、それらを踏まえ、教材や生徒の生活体験などを生かしながら、一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする必要がある。さらに、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできるようにすることが望まれる。

（『中学校解説道徳編』p. 89, 90）

3 道徳科における「深い学び」

○様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習

○道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究する過程を重視し、**道徳的価値に関わる自分の考え方、感じ方をより深めるための多様な指導方法**を工夫することなど

（中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日））

○生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。

○人間としての弱さを認めながら、それを乗り越えてよりよく生きようとすることのよさについて、**教師が生徒と共に考える姿勢を大切にする**

（『中学校学習指導要領』第3章）

○教師が生徒と共に人間の弱さを見つめ合い、考え合った上で、夢や希望などを共に語り合うような姿勢をもつことが大切

（『中学校解説道徳編』p. 92）

○道徳科において問題解決的な学習を取り入れた場合には、その課題を自分との関わりや人間としての生き方との関わりで見つめたときに、自分にはどのようなよさがあるのか、どのような改善すべきことがあるのかなど、**生徒一人一人が道徳上の課題に対する答えを導き出すことが大切**である。

（『中学校解説道徳編』p. 96）

○学習活動において生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

○生徒が「自己を見つめ」「広い視野から多面的・多角的に」考える学習活動において、「道徳的諸価値の理解」と「人間としての生き方についての考え」を、相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく。

（『中学校解説道徳編』p. 112）